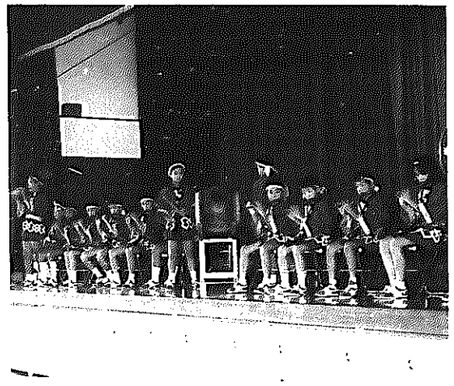
今、生涯学習の時代です

一生続けていけるもの ありますか

時代の変化に流されない しっかりした自己形成を



伝統芸能を継承する大鷲小・祭りばやしクラブ。子供たちの生涯学習が地域をつくっていく（大郷、鷲巻の地域づくり事業）

人間は一生の間にいろんなことを学びます。家庭でしつけを、学校で勉強を、職場で仕事を。家族から、先生から、先輩から、友達から、たくさんの人から教えられ、自己を形成していきます。

人間は、いろんな場所へ行き、さまざまな人と触れ合うことで自己が高まり、世界が広がります。それには何か交流の媒介となるものがあれば効果的です。

「生涯学習」という言葉が叫ばれるようになってから数年がたちました。生涯学習とは、自らの意志で自分自身を豊かにするための学習を生涯にわたって続けることです。

今、時代の変化は一層激しくなっています。国際化、高齢化、技術の高度化…。こうした時代の波は確実に私たちの家庭に押し寄せています。

このような時代に大切なのは自分がしっかりすること。言い換えれば、時代の波に押し流されず、自立的に生きるために大切な何かを見つけることです。それにより社会の動きを知り、自分なりの判断ができるようになります。

学習というと、とかく講義、講演、授業など、教え導いてもらうことを考えがちです。けれども、より良い人生を生きるための学習となると、もっと幅広いとらえ方が必要になります。仕事や趣味や娯楽を通して楽しく学ぶこと、幅広い人間関係を結ぶこと。どちらも学習の一つです。自己を高いところに到達させようとするために学習を続けることがその人のライフスタイルになること、それが生涯学習の最終的な狙いといえるでしょう。

これがわたしの生涯学習です

船の復元で体のさび落とし

四十年ぶりに木造船を造った小林梅八さん（黒埼町・七十九歳）。しろね大凧と歴史の館に展示する長船（おさぶね）の復元です。

二年前に連れ合いに先立たれ、以後体調を崩した小林さん。二度にわたる胃の手術、肝臓の悪化…。家族のだれもが船を造るのは無理と思いました。しかも設計図もなく、復元の頼りは小林さんの経験だけ。「船大工としての技術を子や孫に見せたかった」と話す小林さん。さびた道具を研ぎながら「人間も道具も同じ。使わないとさびてしまう」と感じたとか。

作業が進むにつれ、体調はみるみる回復。「仕事をすることがこんなに人を変えるのか」と家族も驚きました。「体のさび落としができた」と笑う小林さん。現在は「ついでに始めた」という甲蓮防（こうれんぼう）船を復元中です。（関連記事四ページ）

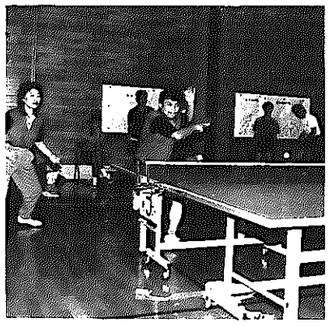
大切なのは無理せず続けること そして楽しむこと

「生涯学習と言われても、何を始めればいいのかしら」、「私はあまり器用じゃないし…」、「何かしたくても仕事が忙しくて」。そんなふうに考える人も多いでしょう。けれども改まって考えることはありません。だれでも何か興味を持っていることがあるはずです。それをやればいいのです。

生涯学習で大切なのは「続けていくこと」そして「楽しむこと」です。特に変わったことをやる必要はありません。極端に言えば、読書でも日記でも何でもいいのです。難しく考えず、自分のできる範囲で継続していくことが大切です。

変わったことをやろうとして、途中で投げ出してしまっては何にもなりません。興味があること、やって楽しいことなら、無理せず続けられます。学習とは楽習、楽しく習うことと考え、何かを始めてみましょう。

親子ソバ作り教室。指導を受けながら、学習を通して親子の触れ合いを楽しむ



スポーツで体を鍛えるのも生涯学習の一つ（市民総合スポーツ大会）

有志指導者派遣制度で 人生に一味加えてみませんか

「もっといろんなことを知りたい」「もっと多くの人と出会いたい」。人間はだれでも生き生きとした自分でありたいと願っています。「人生に一味加えてみようかな」そんな軽い気持ちで、趣味やスポーツを始めたり、地域の事業や行事に参加してみてください。今まで考えられなかった世界が開けるかもしれません。

市では、市民の皆さんが「いつでも」「だれでも」「どこでも」気軽に生涯学習を進められるよう、有志指導者派遣制度を設けています。

これは趣味、けいこ事、スポーツ、伝承文化などの分野に登録された指導者が、市民のグループに派遣され、学習のお手伝いをするもの。ワープロ、手話、俳句、スポーツ、書道、油絵など、さまざまな分野に八十四人の有志指導者が登録されています。指導者の皆さんはあなたの身近な人ばかり。個人の家庭や集会所など、身近な施設で楽しく仲間づくりをしながら、学習を進めることができます。仲間同士の学習だけでなく、学校や保育園、地域活動にも役立ちます。ぜひご利用ください。

□有志指導者派遣制度に関する問い合わせ　教育委員会社会教育課（☎373・3171）または中央公民館（☎373・3174）へどうぞ

好きだから続けてきた

「現役は退いたつもりだったけど、友達に誘われて」と、陸上の第一線へ戻ったきっかけを話す中村新作さん（白新町八十一歳）。少しずつ練習を続け、今年五月に宮崎県で行われた世界ベテランズ陸上選手権では、世界の強豪に交じって、走り幅跳び八十歳代の部で、見事四位に食い込みました。

これまで陸上を続けてきた理由は「単純に走ることが好きだから」と笑います。けれども「陸上を通じてたくさんの友達ができるのが何よりうれしい」とも。若いころからいろいろな大会に参加してきた中村さんの元には、全国各地から旧友の激励の手紙や年賀状が数多く届きます。

「記録がすべてではありません」と言う中村さんですが、毎朝五キロのジョギングを欠かしません。コースには友達の家が何軒かあるとか。つい長居してコースを変更することも。鍛え上げた健脚で交流の輪を広げています。